



2026 AUTOBACS SUPER GT
Round 2 FUJI GT 3Hours RACE GW SPECIAL
 MAY. 3 - 4 Qualify : 11th / Race : 7th

完璧な仕事でウエイトを跳ね返し7位に。ランキング首位を守る



4月11～12日に岡山国際サーキットで行われた第1戦では、ポール・トゥ・ウインという完璧なシーズンのすべり出しをみせた D'station Racing。その勢いを繋げるべく迎えた第2戦は、ゴールデンウィークの一戦である富士スピードウェイでのレースだ。D'station Racing は近年好結果を残している相性が良いコースでもある。

ただ、第1戦岡山での勝利により、藤井誠暢／チャーリー・ファグがドライブする D'station Vantage GT3 は、大きなハンディキャップを負っていた。50kg のサクセスウエイトに加え、レース中の給油時間が増えてしまう給油リストラクターが取り付けられた。

しかし、チャンピオンを争うためにはそんな逆境を跳ね返し、しぶとく上位に食い込みポイントを獲得するしかない。D'station Racing は5月3日（日）午前10時30分から行われた公式練習に臨んだ。

この日の富士スピードウェイは曇り空で、気温22度／路面温度34度というコンディション。そんな中、D'station Vantage GT3 は藤井から走行を開始すると、ファグに交代。途中GT500車両に接触されるシーンもありヒヤリとしたが、合計27周を走り1分38秒023というベストタイムを記録した。ただ、岡山で躍進を支えたタイヤがこの

富士では柔らかく、順位は26番手と苦しい週末のスタートとなってしまった。

そこでチームは、午後の公式予選に向けて、もうひとつ持ち込んでいた硬めのタイヤを使用することになった。これが功を奏し、午後2時20分から行われた予選では、ファグが1分36秒185というタイムを記録し、しっかりとQ1を突破。Q2では藤井が1分35秒749というタイムを記録し11番手と好位置で終えることになった。

公式予選後、富士スピードウェイには強い雨と風に見舞われたが、早朝には雨は止み、午後2時から行われた決勝レースは晴天のもと迎えた。

気温24度／路面温度43度というコンディションとなった決勝で、スタートドライバーを務めたのは藤井。まずはオープニングラップでふたつ順位を上げ9番手につけると、8周目には8番手に。上位争いに加わっていった。

その後10周目には9番手にポジションを落とすことになるものの、藤井は決して無茶をせず、タイヤを労りながらレースを進めた。ライバルたちの中には、タイヤトラブルに見舞われる車両も増えていったが、藤井はチームとともに練り上げたセットアップ、そして繊細なドライビングで高いペースを保ちながらレースを進めていき、36周を終えピットイン。ファグに交代した。

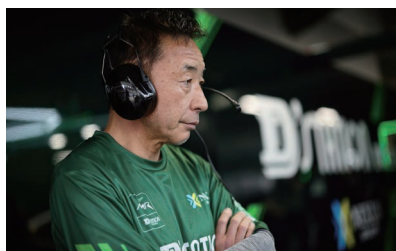
3時間という長丁場のレースで、ファグは藤井同様、高いアベレージを保ちながらも、タイヤを護るレースを展開していった。途中、#61 BRZ等に順位を譲るシーンもあったものの、それでも#4メルセデスを抑えるなど、クレバーなレースを展開。71周には2回目のピットインを行い、ファグはそのままダブルスティントを担当。チームも抜群のピットワークで送り出し、レース後半もトラブル車両が相次ぐなかで、D'station Vantage GT3 は安定したレースを進めた。

トラブル車両が多いものの、結果的にはフルコースイエローが1回しか出ないハイスピードなレースとなった第2戦だが、D'station Vantage GT3 はきっちりと106周を走り切り、7位でチェッカーを受けた。50kgものサクセスウエイト、そして給油リストラクターを受けている状況で、これ以上望むべくもない好結果となった。

この7位入賞により、D'station Vantage GT3 は9ポイントを加算。35ポイントでランキング首位をキープした。2026年のSUPER GTは、第3戦セパンが延期されたことで、8月の第4戦までレースは開催されないが、次戦の舞台はふたたび富士スピードウェイとなる。D'station Racing は第4戦もこの勢いを保つべく、次戦も全力でレースに臨んでいく。



COMMENTS :



Team Owner : Satoshi HOSHINO

今回はウエイトも積み、給油リストラクターも入るなどいろいろなハンディキャップがあったので、10位以内に食い込めば良いという気持ちで臨んだレースでした。そういう中でチームもドライバーも素晴らしい仕事をしてくれて、予選11番手、そして決勝レースも7位だったので、完璧ですね。チームもノーミスでしたし、素晴らしいレー

スになりました。次戦まで3ヶ月あきますが、シーズン後半に向けて良い位置につけることができました。今からワクワクしています。もちろん今回も予選でもう少し上に行けたらという気持ちもありましたが、それでもこの条件下でベストな戦いができたと思います。第2戦も応援ありがとうございました。



Director : Kazuhiro SASAKI

この富士スピードウェイでのレースは、昨年第2戦では惜しい一戦でしたし、第4戦では2レースとも優勝していますからね。今シーズンは開幕戦で優勝して、サクセスウエイトや給油リストラクターが入っていたとしても、良いレースができるだろうと思っていました。実際にはいろいろな大変なこともあるかもしれないだろうという想像

もしていましたが、チーム、そしてドライバーふたりが想像を上回る素晴らしい仕事ぶりをみせてくれたと思っています。7位という結果は現状を考えると、これ以上ないものになったのではないのでしょうか。これでランキング首位もキープしてすることができましたし、次戦もまた富士ですから、この調子でいきたいですね！



Supervisor : Tetsuya TANAKA

開幕戦での優勝にともなうサクセスウエイトと給油リストラクターがある中で、できれば10位以上、なるべく上のポイントで……と臨んだレースでした。毎年トラブルがある中で、ノートラブルで戦えば結果は残ると思ってきましたが、チーム、ドライバー、エンジニアと皆がすべてノーミスで戦うことができました。比較的リスクを負わない戦

いをしましたが、こういうレースをしっかりと切り切ることができたのは、チームとしても大きなステップになるのではないかと思います。次戦はふたたび富士スピードウェイですが、これからまたウエイトも増えますし、コツコツ積み上げていきたいと思っています。勝負をかけるべき時に備え、きっちりとやっていきたいと思っています。



Driver : Tomonobu FUJII

今回はサクセスウエイトが50kg、給油リストラクターもあり、得意な富士スピードウェイとはいえ、走り出しはすごく苦戦しました。そんな中で、2種類持ち込んだタイヤのうち、良いタイヤを選んだ結果、予選では11番手という位置につけることができました。レースは簡単ではないですし、荒れるだろうと思っていたのですが、ダンロップ

さんと何度もミーティングをして、うまく使うセットアップを作ってきました。僕も順位を上げられましたし、チャーリーも良い走りをしてくれました。僕たちの最大限を出しての7位だったので、最高のリザルトになりました。このままポイントランキング首位を守っていけるように、次戦も頑張りたいと思います。



Driver : Charlie Fagg

素晴らしいレースになったね。7位という結果には満足しているよ。今回はサクセスウエイト、給油リストラクターもあって難しいレースになることは事前に分かっていたけれど、幸運なことに富士スピードウェイはいつも良いレースができる傾向にあった。だからポイントはしっかりと獲得できると思っていたんだ。予選は11番手だったから、

今日の目標は7位くらいだったんだけど、まさかそのとおりになるとはね！もう少し上位だったら良かったけど、この結果には満足しているんだ。ダンロップタイヤも重量が増えても良い結果が出ることを証明してくれた。この結果でチャンピオンシップの首位を守ることができたし、次のレースも楽しみにしているよ。

